

(株)ニチレイ 第10回植物相調査報告

2014年10月2日(木)に、黒沢研、塘研、木村研、難波研、廣瀬先生の連携研究「裏磐梯湖沼の生物相および周辺植生の総合調査」の一環として、黒沢先生、猪瀬 礼璃菜先輩(黒沢研究室 M1)と私の3名で(株)ニチレイ社有地の第10回植物相調査を実施しました。

調査では、まず旧道から1の池へ向かい、その東側の尾根を越えて中瀬沼との間を調査しました。全体的には花はもうほとんどなく、あるのはアキノキリンソウぐらいでした。また、木本は様々な色に広葉・落葉し晩秋といった感じを受けました。もしかすると見落としたのかもしれませんが、調査で花や実をあまり見ることがなかったカエデ類やトネリコ属の植物を中心に採集しました。

中瀬沼付近では、迷いかけましたが、偶然杭を新たに2本発見しました。(株)ニチレイ社有地の範囲は、1の池の東側にある尾根だと思っていましたが、それよりも奥まで範囲に含まれることが分かりました。

その後は、2・3の池周辺の湿地、1・2の池の探勝路側、冷涼な岩場などを調査しました。黒沢先生曰く、植物の様子からすると植物相調査も今回が最後になるかもしれないということでした。私としては、雪が降るまでは、あと数回様子を見に行きたいと考えています。

報告 黒沢研究室4年 遠藤 優年



林内の様子



水中に落ちたカエデ類の葉



落葉により見えるようになった山並み



ミツバアケビの実